お祖師さまをお訪ねする物語 第17回

高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

関西地方を中心に勉学に励んでいたお祖師さま（高祖日蓮大士）は、建長五年（一二五三）の春、生まれ故郷の安房国に帰ってきたんだ。そして、これまでの勉学によって法華経が最もすぐれた教えであると知り、それを弘めることを自らの使命（与えられた重大なつとめ）としたんだ。今回は「立教開宗」と「日蓮」と名を改められた（新しいものに替える）お話をするね。

旭ヶ森の巻

お祖師さまは、故郷の清澄寺（千葉県）で出家（お坊さんになること）したあと、正しい仏様の教えを求めて、鎌倉や比叡山、さらに奈良の高野山などのお寺を巡って遊学（よその土地にいって勉強すること）されたんだね。（『お祖師さまをお訪ねする物語・第二～五回』を読んでね）

お祖師さまは、その遊学の結果、ついに仏様の真実の教えが、法華経本門の中に説かれていることを発見されたんだ。それは、みんなが「南無妙法蓮華経」と御題目をお唱えすることだったんだね。

遊学の旅を終えたお祖師さまは、故郷の清澄寺に戻られるんだよ。そして、旅の疲れをいやすと、清澄寺のお堂にこもって、七日間一歩も外に出ないで、「南無妙法蓮華経」と御題目をお唱えされたんだ。

旭ヶ森の日蓮聖人像
この像は大正12年に建立される。2日後に発生した関東大震災にも何の損傷もなく、厳然と立ち続けたという

建長５年４月28日、旭ヶ森の一角に立ち、朝日に向かって大声で御題目をお唱えされた

そして、お堂にこもってちょうど一週間が過ぎた建長五年（一二五三）四月二十八日。お祖師さまは、清澄寺の境内地の「旭ケ森」の山頂に立ち、昇る朝日に向かって、大声で「南無妙法蓮華経」と御題目をお唱えされたんだよ。

これを【立教開宗】というんだね。この日よりお祖師さまの御題目を弘めるご弘通ご奉公が始まるんだ。お祖師さまが三十二歳の時のことだよ。

日蓮と名乗る

また、お祖師さまはこの【立教開宗】の時、これまでの名前の「蓮長」を【日蓮】と改められたんだね。

お祖師さまは、ご信者の四条金吾さんの奥さんに出されたお手紙の中で「明らかなる事日月にすぎんや。浄き事蓮華にまさるべきや。法華経は日月と蓮華となり。故に妙法蓮華経と名く。日蓮また日月と蓮華とのごとくなり」（四条金吾殿女房御書・高祖日蓮大士御妙判集第三巻三九七頁）と仰っているんだよ。

暗い所を照らす（光をあてて明るくする）のは「お日さま（太陽）」や「お月さま」だね。また、汚い泥沼の中でも美しい花を咲かせるのは「蓮華」の花だね。

そこでお祖師さまは、「日月（太陽や月）」のように「人々を明るく照らす（人々の苦しみを取り除く）」。また「蓮華」のように「世間の悪に染まらない（影響や感化されない）でご弘通ご奉公させていただく」と、「日月」の「日」と「蓮華」の「蓮」を取り、【日蓮】と名乗られたんだ。

【日蓮】という名前には、仏様の御使いとして「世の人々を御題目のご信心でお救いするぞ！」との力強い決意が込められているんだね。何だか【日蓮】というお名前、とても格好いいな～。

清澄寺の練行堂
清澄寺の本堂から旭ヶ森に向かう途中にあるのが練行堂で、日蓮聖人はここで修行したと伝えられている。写真の中央には井戸も写っている

旭ヶ森の風景
日蓮聖人が、この先の太平洋から出る朝日に向かって「南無妙法蓮華経」と立教開宗の第一声をあげられた